

「日本女性会議2025檀原」第6回実行委員会報告

全文(公開用)

1 開催日時	令和7年2月17日(月) 午後2時~4時30分
2 場所	大和信用金庫八木支店3階第1会議室
3 出席委員	19名
4 欠席委員	7名
5 事務局	6名(檀原市企画戦略部、人権政策課)

6 各部会進捗報告

【事務局報告】

- (1) 総務部会はR7.2.6に開催し、議事内容は後に議事として報告。
- (2) 企画部会はR6.10.28とR7.2.4の2回開催し、その結果として現時点の分科会及び全体会の進捗を報告。分科会については資料1-2に、全体会については、資料1-3に、前回から変更、追加決定した登壇者等を追記。また、全体会最後の記念シンポジウムについて講師との調整の結果、登壇者の選定に向け、5月24日に事前ワークショップの開催を決定。
- (3) 広報部会はR7.2.5に開催し、(1)チラシ、パンフレットの制作と、HPのリニューアルに向けた方針について承認。また、上記の事前ワークショップの広報についても効率的な手法を検討中。また、エクスカーションについて、資料1-5にあるように協議中であり、物価高騰や万博期間中である影響で、全体的な値段の高騰を懸念している。

【意見】

(委員)

かしはら未来会議について、開催時間はどうなっているか。また参加する学校数は決定した5校だけでなく、もっとたくさんの学校が参加した方がいいのか。

(事務局)

10時から13時の3時間を予定。参加校についてはまず市内中高生から当たっており、今後公募を行い、最終的に7校で実施できるよう検討中。

(委員)

檀原市の学校には一律に内容説明し参加呼びかけをしているのか?

(事務局)

私立は個別に説明に伺い、公立の中学には校長会の場で各校長に向け説明を行った。その結果、光陽中学から手が上がった。

(委員)

檀原市での開催なので、是非檀原市の中学校をもう少し増やしていただきたい。

(委員長)

公募するのは、中学校を増やすのか。

(事務局)

現状中学校 2 校、高校が 3 校のため、公募で市内に限らず県内にまわる予定。

(委員)

年明けに市政 70 周年を記念し、同系統のイベントが開催される予定。そちらは受験前なので 2 年生が中心になると思われる。全学校が参加はせず、各校によって温度感の差があると思う。光陽中学はもう参加表明したのか。

(事務局)

光陽中学は他で手が上がらなければ是非やらせていただきたいということでお話があった。おっしゃられたように、各校でかなり温度差を感じる。今後市内学校から手が上がればそちらを加えて 7 校としてもよいが、現状は 2 校分の公募は必要。

(委員)

光陽中学は今、檀原高校と中高連携事業を県と市とのタイアップで実施しており、それもあって手が上がったのでは。市内の未来を語る場所なので 1 校だけでなく、これからも市内へはたらきかける。また、1 校何名の参加か。生徒会が参加する等もよくあるパターン。1 校 1 名でもいいのか。

(事務局)

1 校何名というのは決めてはおらず、団体や個人、チームでの参加も自由。色々なパターンがあるが、学校として参加し、授業の一環とする場合も想定。生徒会に任せると考えている学校もある。やり方は任せるが、人数については制限せず、今後参加校と調整していく中で決定していく。

(委員)

ソロプチミストは参加校に加え八木中学も支援しており、八木中学にも参加の機会をいただきたい。

(委員)

プレ大会の振り返りとして、野々村友紀子さんのトークショーにファンがたくさん来て、その後のイベントには残らずに帰ってしまい、会場の空席が目立っていたと思う。全体会の登壇タレントさんの記念講演でも、その後の記念シンポジウムや閉会式に人が残らないことを危惧している。舞台転換等の対応は検討しているか。

(委員)

企画部会でも検討したが、プレ大会が無料なのに対し本大会は参加費を払って参加するため、プレほどの大きな引きは無いと考える。ただ、舞台転換等はプレ大会のことも念頭において今後協議する。登壇タレントさんのスケジュールは動かせないが、例えば前売り券での席確保等、様々な方法を検討したい。また、今後は広報についても、イベントを作り上げていく様子を日々発信し、活発な広報を行っていききたい。

(委員長)

登壇タレントさんの前後には分科会報告、記念シンポジウムと重要なコンテンツがつづくため、そのつながりはとても大切。登壇タレントさんがどのような話をされるのかは聞いているか。

(事務局)

登壇タレントさんからはポジティブな気持ちになって、女性がいろいろなことにチャレンジしていくお話をしていただけるよう、最終調整中。全国の参加者が分科会の話も聞きつつ、前向きな気持ちを持って、自分自身も何かにチャレンジしたい気持ちになってお帰りいただきたい。

(委員)

ソフト(内容)で場をつなぐのではなく、ハード(設定)面での対策をしたい。例えば会場整理係が前面に観客を集めるよう誘導する等。

(委員)

舞台転換を挟まず、観客を逃がさない形での開催を検討中。ただし、現状の企画は登壇タレントさん以外の内容も魅力的なものにブラッシュアップしてきた。この魅力をいかに周知していくかが重要。

(委員)

以前、別の著名人の講演で同様の懸念があったので、事前にマネージャーと粘り強く協議し、講演終了後も残っていただくなどした。先方のスケジュールもあるだろうが、登壇タレントさん目当ての参加者は登壇タレントさんがおられる限り会場に留まると思う。例えば休憩時間をなくして登壇タレントさんに終了後 10 分間でも座ってもらえる等したら。

(委員)

5 月の 1day ジェンカレについて、最終的に選ばれて登壇する大学生数名だけでなく、5 月に参加した数十名についても女性会議に参加してもらい、盛り上げを図るべきでは。

(委員長)

数名だけでなく、できるだけ多くの若者が関わり、多くの人が共感し考えるきっかけとしていきたい。

(委員)

演台に上がるのは 1 人 2 人でも、全員で発表する内容を作り上げていく、という雰囲気であれば。また、事務局の方にチラシ等を作り、学長会でお願いする等していただければ、各大学のジェンダー論の講義等で参加を呼びかけ、場合によっては学生の動員を図ることも可能。

(委員)

講師の意向としては各大学から選抜して参加者を選ぶのではなく、高校生も含めて、ジェンダーにまだ興味が薄い人も参加してもらい、最終的にこのイベントを通して若者のネットワークができることを目指しておられたようだった。

(委員長)

やはりこの記念シンポジウムは全体会での締めとしてとても重要なものなので、もう少し参加者に幅を持たせてもよいのでは。

(委員)

学生へ呼びかける広報というだけでなく、学生が集まり、このイベントを作り上げていく過程をリアルタイムで発信していくのが望ましいのでは。また、可能ならメディアも積極的に活用したい。

(委員長)

ニュースなどにも取り上げてもらえたら素晴らしい。また、動画発信等、広報の頻度を上げていき

い。決まった内容だけでなく、その過程の内容も含めた継続的な広報で世間の関心を保ちたい。

(委員)

1day ジェンカレについて、チラシ案を見るとこの日だけのイベントと見えるが、実際は終了後のワークや最終的な全体会登壇など、実際は継続的な内容。そのあたりも事前に伝えたほうがよいのでは。

(事務局)

仰るように、5月24日のイベント後、1ヶ月を目途にその後の自分の取り組みをワークのような形で提出していただく予定。その内容を講師とともに確認し、登壇者を決定していきたい。スケジュール等詳細は未定だが、継続的な広報ができるよう広報部会とも協議する。

(委員)

エクスカッション案の5葉草ツーリズムに16名様限定とあり、一番上の販売代金が2名様となっているが、実質的にはその4名だけのプランという理解でよろしいでしょうか？

(補佐)

1部屋最大4名で4室用意しており、4組16名が最大。最小催行人数は6人。

(委員)

登壇タレントさん終了後の心配だけでなく、講演が始まるまで人が来ない懸念もあるのでは。

(事務局)

学生は無料ではあるが、原則は前日から2日分5000円の料金を払って参加する形なので、登壇タレントさんのところだけ来るという想定はしていない。ただし、登壇タレントさん講演の時間帯は昼頃の一番人が活動しやすい時間帯なので、そこが参加人数のピークになる可能性はある。

(委員長)

前日からくる参加者は全体会も朝から来てくれるのでは。

(オブザーバー)

過去十数回の日本女性会議に参加してきたが、最初から最後まで参加するのが基本。帰りの電車の都合等はあるかもしれないが、基本最後までいるのでは。地元の参加者は別だが、全国から期待してこられる参加者がほとんどだと思うので、その心配はないのでは。

7-1 議案第1号 2025年度事業計画(案)・予算(案)について

【議決の結果】:承認

【経過】:

(事務局)

2024年度事業報告。

参加受付業務を株式会社JTBに。大会HP制作を株式会社百代に委託すべく選定。また、大会運営業務を株式会社エヌ・アイ・プランニングに委託すべく現在協議中。

2025年度は大会開催に向け、実行委員会と広報、ボランティア募集等を進めていく。

協賛・寄付等の募集について、物価高騰の影響もあり、協賛金額の目標額を当初より増額し1480万円とする。2023年度に150万円、2024年度は290万円の協賛実績があり、今年度中に

100万円、2025年度に940万円の協賛獲得を目指す。

また予算案について、資料4のとおり作成。

(委員)

協賛金について、2024年度で約290万円に加えて100万円見込とあるが、資料5-2では520万円となっている。

(事務局)

資料5-1についてはすでに来年度での協賛のお約束をいただいている企業を含んでいるため。

(事務局)

資料2-1で協賛寄付の目標額が概算1,460万円としており、それに対する資料5-2の520万円との差額が今年度、来年度に限らず、集めていかないといけない差額940万円となる。

(委員)

残り940万円はかなりしんどい。今年度の390万円とは具体的にどんな活動をしていたのか。今年度はプレ大会もあり、なかなか動き出せなかったのではと思うが、来年度動いていくための体制はできているか？

(事務局)

今年度は年度後半から動き始め、檀原商工会議所にご協力いただいて大口の事業者へあたり、檀原市内や市に出入りしている業者に順次声掛けを行った。総務部会員とともに関係事業者へ当たっているが、是非総務部会員以外の実行委員にもご協力をお願いしたい。

(委員)

協賛を受けた企業のPR等はまだ行っていないのか。PRをしなければ協賛でなく寄付になってしまう。プレ大会でも特にチラシ等はなかったが。

(事務局)

プレ大会では実施していないが、資料5-1にもあるように、100万円以上で大会プログラム1ページの広告等を実施。また、大会HPにもすでに3社を掲載済。その他デジタルサイネージなども今後実施予定。

(委員)

少しスケジュールが遅いように感じるが、もし集まらなければ市の補助金で補填するのか。

(事務局)

集めることを目標に、費用削減等も検討。

(事務局)

大会の意義を失わぬよう、大会規模の縮小等は考えていない。

(事務局)

事務局も危機感を持って取り組んでおり、実行委員の皆様にも是非ご協力いただきたい。市の補助金はあくまで予算計上している分のみで、原則この事業は自主財源となる。

(委員)

総務部会員は、協賛金依頼セットを持ち歩き、人と会うたびに協賛のお願いを行っている。

(委員)

2024 年度実績は、実際は年度の前半に入っているはず。また目標額についても、来年度に入って増額するのではという懸念もある。協賛企業を大会プログラムに載せるのであれば、校正の期限である 6 月までに集めきらねばならず、時間はない。本来、こういう場合は企業の規模や協賛実績から、各企業での目標額を設定し、集める戦略を建てなければならない。

(委員)

足りなかった場合は市が補填するのではなく、実行委員が按分して補填するのでは。もちろん協賛金は戦略をたて、スピード感を持って集めに行くが、確実に集められるとは言えない。

(事務局)

実行委員会で負担という想定はしていない。あくまで協賛金を集めに行くのが大原則。企業としても周りの協賛額等も気にしているので、戦略を立てながら動いていくのと同時に、参加者についても増やしていけるよう、企業の研修等に利用できないか、同時に当たっていく。こういったお願いをする際は、より上層部に当たるのが効果的であるため、実行委員の中で心当たりがあれば是非ご協力いただきたい。

(委員)

予算計上されていないが、奈良県や国の地方創生等の補助金も検討されたい。

(事務局)

奈良県から補助金等交付受けられるよう担当者と協議中。また、国の第二世代地方創生の交付金についても検討したが、国へ諮った際、日本女性会議は過去実績があり、新しい事業と言えないため対象外であるとされた。

(委員)

最終的に集まらなかった場合はどうするのか。補助金にしても補正を組んで議会に通さねばならず、急にはできないと思うが。

(事務局)

実行委員会でそのようなことを過去に議論しておらず、負担の必要などをここでは決められない。

(委員)

質問を変えるが、実行委員会が負担する可能性の有無を教えて欲しい。

(事務局)

基本考えていない。

(委員)

実行委員として参加する以上、お金は集めなければならない、その責任の所在ははっきりしておくべき。

(委員)

集まらない前提で動いてはいけない。動き出しは遅いが事務局も含め、皆必死で動いている。

(委員)

8 月末に参加者数が決定した時点で、歳入がさらにマイナスになる懸念はないか。

(事務局)

8 月末時点で参加人数が想定未満だった場合、業者と協議し追加申込も検討する。

(委員)

企業としては決算の兼ね合いもあり、この年度内でできるだけ動いておかなければならない。

(委員長)

今 2 月の下旬だがそういった動きは可能か。そもそも企業の協賛金はいくらから可能か。

(事務局)

広告等の特典は 1 万円~だが、それ以下でも協賛は可能。できるだけ早く目途を立てられるよう、県や他市のイベントでのチラシ配布、東京の商工会議所でのアナウンス等を実施中である。その他、イベント等に心当たりがあれば、実行委員会として後援等も可能なため、積極的に教えて欲しい。

(委員長)

企業の規模というのは、ジェンダーに力を入れている企業等を重視しているのか。また、奈良県内でなく橿原市中心か。

(委員)

大きい企業でなくても、小額からでも少しずつ知り合いから当たって集めていきたい。

(事務局)

現在あっている企業は橿原市の過去のイベント協賛実績からリストを作成し、心当たりのあるところから回っている形。場合によっては事務局も同席し、協賛依頼を行う。今後は県の女性活躍推進クラブに加わっている企業等もリストアップする。

(委員長)

分科会の関係団体や、同様の活動をしている団体に声掛けを依頼し、是非参加者を募りたい。魅力的な企画がたくさんあるので、共に問題を出し合い、盛り上げていけるよう、参加、ボランティア、寄付を含めた声掛けをお願いしたい。各団体にとっても全国へのアピールとなるチャンス。

8 報告

【事務局説明】

(事務局)

(1) 大会運営等業務のプロポーザル審査について

大会運営業務委託業者について、プロポーザルの結果株、株式会社エヌ・アイ・プランニングに決定。

(2) 協賛金・寄付金の募集について

上記説明のとおり、協賛依頼を順次実施。現在 10 事業者 520 万円の申し出有。

(3) ボランティアの募集について

委託業者と協議の結果、募集人数は 55 名で積算。募集開始は早ければ 3 月頃からHP公開し、大学等には新学期以降、4 月頃から当たる予定。

【意見】

(委員)

ボランティア募集について、中高生の場合学年は何年生以上か。

(事務局)

2010年4月1日より前に生まれた方、具体的には中学卒業後、高校生以上が対象。

(委員)

特定の日だけボランティア参加した場合、他の日に関しては費用発生するか。

(事務局)

ボランティア時は報酬無しだが無料参加。ただしボランティア従事中のため自由には回れない。

別の日に関してはやはり参加費支払のうえご参加いただきたい。

9 その他

(事務局)

第7回の実行委員会について、5月の最後週、26~29日のうち半日でスケジュール調整。欠席者も含めて決定後、通知。

(事務局)

協賛金、参加者ともに必ず集められるよう、事務局として必死に取り組んでいく。委員の皆様にも引き続きご協力をお願いしたい。